

将来都市像の実現に向けて

鹿角市議会議長 宮野和秀



明けましておめでとうございます。皆さまには、夢と希望に満ちた爽やかな新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。また、平素より市議会に對しまして、貴重なご意見やご提言を賜り、厚く御礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、10月に消費税が引き上げられました。国では、景気の冷え込みを緩和するために軽減税率などの施策が講じられておりますが、前回の消費税増税後のような景気低迷に向かわないよう、市内の景気動向を注視しているところであります。

6月には鹿角花輪駅前観光案内所がオープンとなりました。鹿角花輪駅前広場の整備事業も引き続き進んでおり、本市の玄関口の整備により、さらなる本市観光の活性化を期待しております。

大湯環状列石を含む17資産で構成する「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、昨年7月30日の文化審議会において、改めて世界文化遺産への推薦候補に選定されました。今後は、現地調査などを経て、早ければ2021年に正式登録となる見込みですが、市議会といたしましては、登録に向けた機運醸成を図りながら、関係機関とともに強力に後押しをしております。

さて、新年度は第6次総合計画後期基本計画の最終年度となります。そして、次期総合計画の策定年度でもあります。これまで取り組んできたさまざまな施策が実を結び、魅力あるまちづくりが推進されるとともに、次期計画において、さらなる飛躍がなされることを、大いに期待しております。

市議会といたしまして、未来への飛躍を目指し、皆さまの声を大切にしながら、基本計画に掲げている将来都市像「笑顔がつながり活力を生むまち・鹿角」の実現に向けた総仕上げとして、積極的な政策提言を行うなど、引き続き、議会の使命と責任の重大性を肝に銘じ、全力をあげてまい進してまいります。

皆さまには、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、ご多幸と本市のさらなる発展をお祈りしつつ、年頭のごあいさついたします。

賑わいの創出と魅力あるまちづくりをめざして

鹿角市長 児玉 一



明けましておめでとうございます。皆さまには、希望に満ちた新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中は市政の各般にわたり、深いご理解とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

昨年は、九州地方での記録的な豪雨をはじめ、台風15号、19号など、全国的に自然災害の多い年でありました。被災された皆さまに心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を切に願っております。

本市におきましては、大湯環状列石を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が文化庁の文化審議会において、世界文化遺産推薦候補に選定されました。2021年の登録実現に向け、万全の準備を整えて臨みますが、既に登録されている「大日堂舞楽」「花輪祭の屋台行事」とあわせ、世界に誇れる鹿角の魅力により一層磨きをかけることで、地域の活性化を図ってまいります。

また、本市が2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の聖火リレールートに選ばれ、本市を通過する6月10日には、花輪スキー場を会場にセレブレーションイベントが開催されます。加えて本市は、ハンガリーのホストタウンとして、大会出場選手やシヨブロン市民を招いて交流を深める予定であり、オリンピックという歴史的

な行事を、鹿角の地でも身近に感じられ、皆さまの思い出に残るよう機運を高めてまいります。

さらに、花輪スキー場においては、来月に控えたインカレ（全日本学生スキー選手権大会）が来年、再来年と3年連続で開催されるほか、スキー国体（国民体育大会）は、2021年から2年連続で行われることが決定しました。国体の2年連続の開催は国体の長い歴史の中でも初めてのことであり、大変光栄なことと感じております。また、国体とインカレの2年連続ダブル開催は、「スキーと駅伝のまち」を全国にアピールできるチャンスでありますので、市全体で盛り上げるようご理解とご協力をお願いいたします。

新年度の予算編成にあたっては、市の第6次総合計画後期基本計画の総仕上げの年として、将来都市像「笑顔がつながり活力を生むまち・鹿角」の実現に向け、産業力の強化を筆頭に、移住・交流の推進、鹿角ブランドの確立など、賑わいの創出と魅力あるまちづくりを進めてまいりますので、皆さまの市政への積極的な参画をお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆さまにとりまして健やかで、実り多い年でありますよう心からお祈り申し上げます、新年のごあいさついたします。